

# ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 1 号 〇●〇

平成 24 年 6 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第1号では、小中一貫・連携教育研究グループのひとつである「光が丘四季の香小学校」と「光が丘第一中学校」の取組を紹介します。

## 【研究主題】

児童・生徒・教師間の豊かなコミュニケーションを育む小中の連携  
～9年間の見通しを立てて～

### ◆ボランティア「ミニ先生」で小中交流（算数・数学部会）

四季の香小・光一中グループでは、算数・数学で「課題改善カリキュラム」の研究に取り組んでいます。23年度は、「数と計算」「数と式」の領域で9年間の指導計画を作成しましたが、小学校では三角形の面積や円周の長さを求める「量と測定」で課題があることから、「図形」の領域で小中交流授業を行うことになりました。

6月14日（木）校区別協議会で、小学3年生の算数の授業公開（3クラス4展開）を行うのにあわせて、光一中生から小学生に算数を教える「ミニ先生」を募集したところ、28名もの生徒が応募してくれました。

「コンパスを使ってもようをかく」の単元で、「ミニ先生」が各クラスに7人ずつ入り、



小学生にコンパスの使い方を説明したり、もようを描くのを手伝ったりしました（=写真）。ふだんは教わる側の中学生も、この日はやさしい先生に・・・初めはうまくコンパスが使えなかった小学生も「ミニ先生」に教えてもらって、いい笑顔になりました。

## ◆俳句作品で小中交流（国語部会）

国語部会では、「コミュニケーションを育む」という主題にそって、聞く・話す力をつけさせるための研究を行ってきました。23年度は、授業研究を行い、小中合同で指導案を作成するなどしてきましたが、今年度はもう一歩進めて、子供や教員の交流に取り組みたいと考えました。

算数・数学部会では、中学生が小学校へ行って直接交流しましたが、子供同士が交流する時間はなかなか取れません。そこで考えたのが、俳句による作品交流です。

6月21日（木）5時間目、四季の香小4年1組の国語の時間に、光一中の国語の先生が参加しました。光一中の先生が、中学生がつくった俳句5句を紹介し、小学生たちは、俳句から連想する言葉をいろいろと出し合ったり、好きな俳句を選んでその理由を話し合ったりしました。身近な中学生が作った俳句に触れて、日常生活が俳句になるんだ、とわかってもらうことが狙いです。

授業の最後に、中学の先生から、5句を作った生徒たちが、どんな気持ちで俳句を詠んだのかを教えてくださいました（＝写真）。次の時間には、俳句の感想を書いた手紙を中学生に送り、小学生たちも俳句づくりに挑戦します。手紙を読んだ中学生たちの反応も楽しみです。



<先生たちのコメント>

○光一中（国語）「やってみたら面白かった。グループワークで使っていた司会原稿を小中合同で作成してもいいと思う」

○四季の香小（4年）「今日、紹介できなかった俳句も掲示して投票するなど、続けて交流したい。俳句以外でも、交流できる単元を見つけてやっていきたい」

○光一中（美術）「小学生の感覚はすごい。俳句の授業は美術の作品鑑賞とそっくりで、とても参考になった」

講師の大妻女子大学の長谷川先生からは、「3年に一度くらい、小中合同で句会をやったら面白いのではないか」との助言をいただきました。

これらの取組がどんなふうに発展していくのか、子供たちの感想はどうだったか、小中一貫教育フォーラムでの発表が楽しみです。